

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業名	調整池維持管理事業			会計	款	項目	大	小
政策	O1	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	河川課				
施策	1-6	安全性と快適性を兼ね備えた河川・排水路整備	主管課長	中西 辰夫				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	調整池周辺及び下流に住む市民	意図	<ul style="list-style-type: none"> 調整池排水施設の適切な保守・管理を行い、機能を確保する。 植栽帯や法面の草刈を行い、良好な住環境を提供する。
事業内容	草刈、清掃、排水施設の保守点検業務委託を実施し、良好な住環境を維持する。			
事業開始から現在までの状況変化	<ul style="list-style-type: none"> 近年は、ゲリラ豪雨が多発していることから、調整池の稼動も増えている。 公共下水道の公営企業化に伴い平成27年度から下水道調整池の電気料や保守点検に係る業務は下水道建設課に移行したが、草刈り等の開水路の維持管理は引き続き、河川課で行っている。 平成27年度に市野谷調整池の帰属を受けた。 			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	苦情の件数	1	4	6	件	↓↓↓
②	排水 1 m ³ 当り電気料	13	12	12	円	→→	全電気料÷全調整池容量
③	貯留 1 m ³ 当り草刈料	23	22	23	円	→→	全草刈料÷全調整池容量
④	管理面積	69405	102525	102525	m ²	→→	
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果

目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）

- 西深井調整池とみやぞの野鳥の池のポンプが壊れ修繕するなど、施設の老朽化が見られる。
- T X 土地区画整理事業での開発調整池及び新川耕地物流開発事業での地区開発調整池の施設引継により、維持費の増加が懸念される。

事務事業のコスト	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事務事業の総コスト(a=b+c)	21,554,583	29,901,734	28,683,039
事業費(b)(円)	20,633,383	28,978,734	27,773,839
うち一般財源	6,629,789	15,329,672	14,519,123
職員給与と費(c)(円)	921,200	923,000	909,200
人役・職員(人)	0.10	0.10	0.10
人役・再任用(人)		0.10	0.10
人役・臨職(人)	0.10		
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			2,970,000
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			10

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H29)の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> 施設保守・維持管理を行い、施設を適切に稼働させる。 防草対策など経費削減を図る。 	③取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> 排水ポンプの老朽化が進み、交換・修繕に費用がかかる。 新たな調整池の施設引継により、維持費が増加する。
②今年度(H29)に実施した取組	<ul style="list-style-type: none"> 故障したポンプの修繕を行った。 保守点検・維持管理を適切に行った。 	④今後(H30以降)の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> 維持管理に係る費用を引き続き削減するよう検討する。 計画的な施設修繕を検討する。